



通称「馬道」と呼ばれる通学路

す。着ていることで子どもたちだけでなく、地域の防犯にも役にたっているとのことです。

意外な効果！

3月までの開成小学校への通学路と違う方角へ通う子どもたち。現在、集団登下校という制度はないものの、友達同士自然に10人くらいの集団で登下校しているようです。通称「馬道」と呼ばれている道路は、狭い割に意外と車の交通量が多いのです。1〜2人歩いているだけでは車も速度を緩めないのですが、10人くらいの集団で歩いていると、さすがに速度を緩めるそうです。気持ちに余裕がない運転



をするドライバーが増えてきたように感じる世の中、意外な効果も現れました。

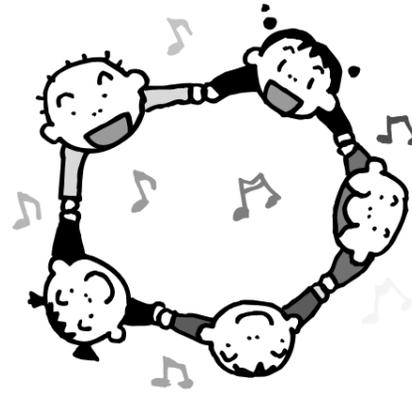
地域の地道な活動が、子どもからお年寄りまで、多くの人々に安心・安全をもたらしてくれそうです。お互いに協力し、連帯感を強めて、犯罪や交通事故を発生させない地域づくりに、皆で取り組んでいる様子が伺えます。発足当時のパトロール隊長でもあり、現中家村自治会長でもある小澤さんは、「開成町は教育のまちづくりを目指しています。その基盤は子どもの安全づくりが土台です。それができて初めて教育ができるのです。」と熱く語ってくれました。

子どもたちを守る地域の力

キャッチフレーズは ～安心・安全は皆の手で～

中家村みどりパトロール隊

開成町では、自治会、老人会および、各団体の自主防犯組織などにより、子どもたちの登下校時など地域の見守り活動をボランティアで行っています。その中で、中家村自主防犯・交通安全「中家村みどりパトロール隊」の活動を紹介します。



中家村みどりパトロール隊結成！

かつて、中家村地区周辺は車の往来も少なく、大変静かな所でした。ところが、昭和63年に足柄大橋が開通すると、一気に交通量が増え、児童が車の間を通り抜けるようになり登校するようになりました。また、平成19年には、中家村周辺で、空き巣や車上あらしなどの事件がたびたび発生するようになりました。

「こんな危険な状態から少しでも子どもたちを守ってあげたい。高齢者が安心して暮らせる地域社会を実現したい。」そんな地域住民の思いから平成20年1月19日に「中家村みどりパトロール隊」は結成され、隊員67人で活動を開始しました。

**開成南小学校開校を
きっかけに**

隊員の募集は、広く自治会全体で協力し合うという心掛けの精神から、各組全般に募集をし、組の中から協力者がいないときは、組長にお願い

をしました。また、自治会総会や子ども会総会などで、常に隊員募集の呼びかけをしました。



みどりのベストを着た隊員の方たち

今年の4月に開成南小学校が開校したこともあり、1年生を対象に4月と5月の2か月間、登下校時の見守り参加者を募集したところ、なんと105人も参加者が集まりました。参加者は1年生の児童の母親が多いのですが、孫かわいさからか、祖父母の参加者も多くみられました。

子どもたちが新しい学校に通うということで、地域の方たちが協力し合うという機運の高まりが感じられました。

**やりくりは大変！
でも、うれしい悲鳴も！**

現在、みどりパトロール隊では通学路や交差点13か所で登下校時の見守りを行っています。パトロール隊員の配置や日程をやりくりするのが隊長の丸岡さん。「大変ですが、たくさん子どもたちとあいさつをしたりすることで元気がもらいます。最初は恥ずかしがっていたのですが、最近では子どもたちのほうからあいさつしてくれるようになりました。



隊長の丸岡さん

活動の時に着ている緑のベストや帽子はとて目立ちます

春の全国交通安全運動 キャンペーンを行いました

4月6日（火）から4月15日（木）の春の全国交通安全運動の一環として、町では4月12日（月）に開成南小学校前横断歩道で、新一年生の横断歩道歩行訓練と、開成駅前では交通安全キャンペーンを行いました。



このキャンペーンには松田警察署の一日署長に任命された開成町出身の2008ミス・インターナショナル日本代表のKyocoさんも参加してくれました。

開成南小学校新一年生もKyocoさんに手をひかれ、安心して横断していました。

開成駅前では、駅利用者やマックスバリュ開成駅前店を利用される方々にチラシなどを手渡して、交通安全を呼びかけました。

